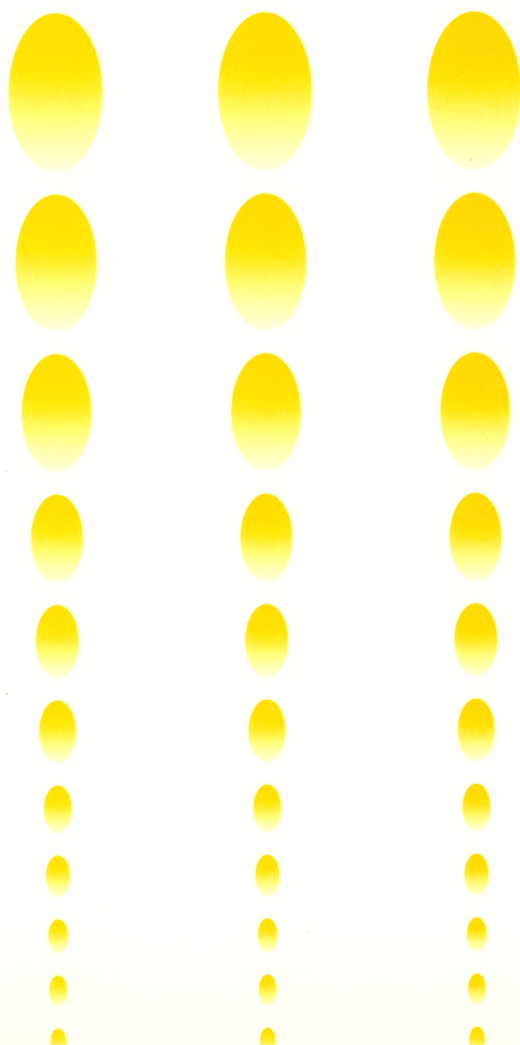


「決算書を経営に生かす」

3つの秘訣

～決算書が読めなければ

真の経営者にはなれない～



ひとりでもうっすらそり読む経営の本

はじめに

会社の数字は生き物です。日々刻々と変わります。また、会社の数字は正直です。日々変化している会社の状況をそのまま伝えてくれるのです。

その数字が訴えている問題点を読み取らなければ、会社はまちがった方向に進んでしまうかもしれません。

いわば決算書は経営の羅針盤、その数字をしっかりと読むことができれば、正しい経営判断ができるのです。

決算書のどこを見れば、問題点が浮き彫りになるのか？

その問題点を分析し、解決するには、どうすればいいのか？

これらのポイントを押さえれば、必ず強い会社になれるのです。

決算書を読むことは何も難しいことではありません。しくみとポイントを押さえれば、誰にでも読むことができるのです。

皆さまもこの小冊子を活用いただき、「決算書を見て経営するんだ！」という意気込みで、問題点とその解決策を見出し、強い会社をつくっていただきたいと思います。

平成19年12月

編 著 者

「決算書を経営に生かす」3つの秘訣

～決算書が読めなければ真の経営者にはなれない～

I. 「決算書」が読めれば社長が知りたいことがわかる

1. そもそも決算書ってどんなもの
2. 儲けを表す損益計算書
3. 財産を表す貸借対照表
4. お金の流れを表すキャッシュフロー計算書

II. 損益計算書のどこを見ればいいのか

1. まず、売上高と売上総利益を見よ
2. 在庫を持つことは本当に損なのか、得なのか
3. 固定費の増加を徹底的にチェックせよ
4. 人件費の額は適正なのか
5. この勘定科目には注意せよ
交際費、会議費、役員報酬、役員賞与など

III. 貸借対照表のどこを見ればいいのか

1. 本当に財務体質が強い会社かどうかを見よ
2. 借入金の返済能力を決算書から読みとれ
3. 設備投資の有効性を決算書から読みとれ
4. 社長貸付金と社長借入金はどのように見られているのか
5. この勘定科目には注意せよ
現金、売掛金、商品在庫、土地

IV. こうすれば必ず決算書の数字が良くなる

1. 熱い思いをもって経営にあたる
2. 売上最大・経費最小に徹すれば利益は後からついてくる
3. バナナの叩き売りに学び、筋肉質の経営に徹する
4. 金融機関から見た悪い決算書はつukらない